



Republic of
Ghana
07

国際協力とは何か

祝迫 直子

広島県立高宮高等学校

●実践教科等/1年生必修 世界史A(1年生LHR)
●時間数/11時間

●対象学年/高校1年生
●対象人数/20名

ココが
興味
らしい!

世界で活躍した日本人や日本の常識と非常識など、生徒にとって身近で興味が持てる流れが素晴らしい。外部から得た情報源を上手に活用している。

❖カリキュラム

【実践の目的】○本単元は、使用教科書においては、「未来への第1章 ともに生きる世界をめざして」にあたる。この単元で特に示されているのは、人間の権利と自由の尊重、異文化理解、ともに生きる世界の現状である。現在私たちは情報過多といわれるくらい世界のニュースを入手することができながら、各事象を自分自身の問題としてとらえることができず、見えない相手への尊重の気持ちが起こりにくい現状である。国際的対立や人類共通の諸問題が生じている今、私たちは過去の人類からの工夫の積み重ねや成功・失敗の歴史から学んだことを、これからの私たちの未来に生かしていかなければならない。人類がみなともに生きていくこと、つまり共生をめざすためには、異文化を深く理解し、他者の人権を自分のこととして理解する意識をもつことが必要である。異文化理解は他者理解でありながら、最終的には自己の意識の変容を理解することである。本単元において、現在の諸問題に正面から取り組んでいる「国際協力」を題材として、私たちが日本人としていかに考えていくべきか、人権意識の観点から取り組んでいきたい。



授業風景 2007.10.22
研究授業にて 拡大写真提示の場面

○7月に事前授業を行い、これからガーナへ研修に行くことを生徒に伝えたとき、二つの課題が浮かびあがった。



(1) 日本の税金(ODA=政府開発援助)を使って、外国に対し支援・援助する必要はない、自国のことに使用すべきだと考える生徒が少なからず存在することと、支援することはよいことだと思ってもその理由を言えない生徒がほとんどであったこと。

(2) 実際に国際協力をしている人のことに関心がない生徒が多かったこと。JICAの青年海外協力隊(JOCV)やNGOについてはほとんど知らない。

上記2点の生徒の意識から見られる課題と、大航海時代以降から現代に至るまで負の遺産を背負わされ、人権獲得のために闘ってきたアフリカの歴史を押さえる。そして生徒自身が身近な事例をもとに課題に主体的に関わっていく姿勢、世界全体でともに生きていくためにはどうすべきか考える姿勢を培っていきたい。

❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	日本の国際協力の現状	JICA青年海外協力隊のVTR 国際協力は何のために行うかについて考える	・VTR ・ワークシート
2	アフリカ史 (8~11世紀のサハラ交易と 16~18世紀の奴隷貿易)	アフリカ史におけるガーナ 豊かな時代と奴隷貿易	・ガーナ教師海外研修版のA3拡大写真 ・ガーナ教師海外研修版のVTR (ケープコースト城)
3	アフリカの植民地化と人権の復権 に向けて	黒人の人権について アメリカの公民権運動を含めて(絵本の読み聞かせ)	・絵本「ローザ」光村教育図書
4 ・ 5	1年生LHRにて、異文化理解実施	日本の常識・世界の非常識のアクティビティーと 班別グループ発表	・模造紙(はさみ・のり) ・記録用ビデオ
6	現代のアフリカ ガーナの北部地区の産業の様子 から国際協力の必要性について 考える	ガーナ北部地区の産品シアバターをもとにフェア トレードを考える	・ガーナ教師海外研修版のA3拡大写真 ・班別カード・シアバター(中間精製物) ・シアバター、ソーブ・ワークシート

7	女性の人権に関する国際協力・支援について	ガーナ北部地区の手工芸品をもとに、女性の人権と自立・支援について考える	・かごと織物 ・班別カード
8 10	世界の現状	VTRの視聴 「もしも世界が100人の村だったら」 「NGO職員」	・テレビ放送の録画VTR
11	世界で活躍する日本人  授業風景 VTR視聴 ガーナ加藤隊員インタビュー	青年海外協力隊について(インタビューを中心に) ・これから任地へ向かう福島県で訓練中の隊員(なぜ、青年海外協力隊へ応募したか) ・現在活動している青年海外協力隊ガーナ隊(高校生へのメッセージ) ・青年海外協力隊への参加がその後の人生にどのような影響があったか(協力隊経験者に来校いただき、教室で生の声のメッセージ)	・パワーポイント ・ガーナ教師海外研修版のVTR(青年海外協力隊員) ・ワークシート ・福島県野口英世記念館販売のグッズ  授業風景 野口グッズの紹介

◆授業の詳細

6 時 現代のアフリカ

(1) 本時の目標

現代のアフリカにおける地方での現状をガーナ北部の産品や伝統的慣習を例にとる中で、外国を身近に感じ、日本が国際協力・支援をすべきかについて、グループ内で話し合い内容を深める。最終的には、一つひとつの社会的事象に対し、私たち日本人が他国の人々の人権に配慮していかに行動すべきか、自分自身の問題としてとらえ、課題に対して考える力をつけることが本時のねらいである。

(2) 学習の展開

時間	学習活動	学習内容(指示・発問)	指導上の留意事項	評価基準	評価方法
導入 (7分)	挨拶・出欠確認(グループ学習席) 本時の課題の提示 三枚の写真を見る ・写真が訴える内容について考える なぜ、同じ国であるのに、靴を履く人と裸足や裸の人が存在するのだろうか	「今日は、日本が国際協力をすべきかどうかについて考えていきましょう」 ガーナ北部地区の中学校とそこから30分程バスで離れた農村のこどもの写真を見比べ、その写真が何を物語るかについて考える。(所得格差問題)	 靴を履いている人  靴を履いていない人 (貧しい人と豊かな人がいる) 靴と裸足や衣服の違いから格差を導きだす。	写真資料を読みとることができる。	授業観察
展開1 (12分)	北部の産品シアバターについて、現物を見て何に使用するものか予想する(班ごとに予想を発表する) VTRを見る前の事前説明をきく	「今日は、学校の授業を外でみていた裸足の人が多い村をみてみましょう。今から村の産品を班ごとに配布します。さわってもらっても、においをかいてもかまいません。ただし、食べないでください。」 この村の伝統的な産品でありながら、日本貿易振興機構(JETRO)やJICA(国際協力	(クリーム、芋)  生徒がシアバターの触感を確かめている様子	シアバターの具体物に関心を持ち、何に使用されるか予想することができる。	班別カードの点検

田中 紀子
報告書①

古賀 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 堅二郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料

	日本が支援したシアバター工場(作業所)のVTRを見る	機構)が村に支援に入り、最近輸出産業への転換をはかっているもの。 何を作っているかわかるか(中間精製物としてのシアバター→輸出して、チョコレートやポディーショップの石鹸や保湿クリームへ)	〈昔〉何百年も前から油や保湿クリームとして、シアの実は活用されていた。 〈今〉ヨーロッパでは、チョコレートに活用。 日本を含めた先進国は石鹸・保湿クリームを販売。		
展開2 (13分)	VTR後の説明をきく 班で意見を出し合う LHRの異文化理解の内容を思い出す 班ごとの発表 1.支援を続けるべきか否か(理由含む) 2.日本で製品を購入するかどうか	シアの木からとれる実が、外国の資金援助と技術支援により、シアバターとして製品化され、北部貧困地区の女性の新たな収入源となっている。 (例)こどもを学校へ行かせ、服や教材を買うことができる 1.この日本の支援プロジェクトは続けるべきだろうか。 2.活性化するために、みんなは石鹸や保湿クリームを買いますか。	以前、ガーナからの土産でチョコレートを持ち帰った時、カカオなら諸外国に買ってもらうが、製品化したチョコレートはなかなか買ってもらえない現状を思いおこさせる。  LHR時の発表	支援の必要性について考えることができる。	授業観察 班別カードの点検
展開3 (10分)	班で意見を出し合う 購入できない場合は、どうすべきか話し合う (他の支援方法を模索する。) 発表する	フェア＝トレードについて 設備投資や労働に見合った公正な値段で商品を購入する。 例えば保湿性の高い80gの石鹸1個が850円(送料込み1,420円)でも買いますか。	貧困地域の女性が収入を得るためには、外国からの支援と対等の貿易が必要である。	フェア＝トレードについて理解できる	班別カードの点検 後期中間試験
まとめ (8分)	考えた後、個別にプリントをまとめる 次時の予告	今日は、世界の中のガーナを学びました。国際協力や支援は必要だと思いますか。なぜ、外国を支援したり、国際協力をする必要があるのでしょうか。 女性の人権の立場から国際協力について考える。	世界の中のガーナを学ぶことにより、世界の中の日本を意識することができるか。 LHR時の異文化理解において、考えたことを活かす。	自己の意見をまとめたり、自己の変容まで記述することができる。	ワークシートの点検

フェア＝トレードについて

生徒の感想より

外国の人が手作りで心をこめて一生懸命作ったことが分かりました。

現地の自然、伝統的な物を適正な値段で取り引きすることを理解した。

〈所感〉～授業見学者より～

・時間配分を調整すべきである。

(フェア＝トレードへ持っていくまでが長すぎる)

・ポイントを絞るべき。地歴科の基礎・基本は、生徒の興味・関心を高めること。